

博物館評価とは

博物館が当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めるものです。

栃木県立博物館では、博物館評価の実施に向け検討と準備を進め、平成 27 年度実績の評価について試行的に実施し、平成 28 年度実績の評価から本格実施へと移行しました。

評価の方法

当館による自己評価と栃木県立博物館協議会による外部評価があります。

- ・自己評価は、目標の達成状況について定量的評価及び定性的評価を行うものです。
- ・外部評価は、自己評価結果の妥当性を検証し、今後のあり方に関し助言を行うものです。

評価結果

栃木県立博物館評価シート（令和元年度実績）

栃木県立博物館評価シート（令和元年度実績）

1. 定量的評価

評価基準 A:達成度100以上 B:99~80 C:80未満

分野	評価項目	目標値(a)	達成度 (b/a×100)	評価	備考
		達成値(b)			
利用状況	年間入館者数	120,000 人	183.9	A	
		220,667 人			
	レファレンス件数	800 件	102.3	A	
		818 件			
展示	企画展開催回数	3 件	100.0	A	
		3 件			
	展示室利用率	75 %	123.7	A	
		92.8 %			
	来館者満足度	80 %	113.8	A	
		91 %			
普及教育	講座等開催回数	150 件	204.0	A	
		306 件			
	地域移動博実施回数	7 件	114.3	A	
		8 件			
	学校来館数	165 件	81.2	B	
		134 件			
資料の活用	資料貸出件数	140 件	149.3	A	
		209 件			
	データベース公開件数	360,000 件	103.7	A	
		373,406 件			
調査研究	研究論文・研究報告書等件数	35 件	211.4	A	
		74 件			
	研究発表件数	25 件	112.0	A	
		28 件			
情報の発信	報道機関取材件数	30 件	156.7	A	
		47 件			
	ホームページアクセス件数	270,000 件	155.2	A	
		419,043 件			

2. 定性的評価

目標値: チェックリスト評価項目の数×3

達成値: チェックリスト評価aの数×3+bの数×2+cの数

評価基準 A: 達成度100~90 B: 89~80 C: 80未満

総括

評価項目		目標値(a)	達成度	評価	備考
		達成値(b)	(b/a×100)		
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	15	93.3	A	
		14			
	(2) 資料の保存管理	24	75.0	C	
		18			
2 調査研究		12	100.0	A	
		12			
3 展示・普及教育活動	(1) 常設展示	12	100.0	A	
		12			
	(2) 企画展・テーマ展等	12	100.0	A	
		12			
	(3) 普及教育活動	18	100.0	A	
		18			
4 施設の計画的な整備・維持管理		24	87.5	B	
		21			
5 情報の発信と公開		21	95.2	A	
		20			
6 県民参加		15	100.0	A	
		15			
7 効果的・効率的な管理運営		12	100.0	A	
		12			
8 中核的博物館としての機能充実		24	100.0	A	
		24			

内訳

評価項目		a評価	b評価	C評価	備考
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	4	1	0	
	(2) 資料の保存管理	4	2	2	
2 調査研究		4	0	0	
3 展示・普及教育活動	(1) 常設展示	4	0	0	
	(2) 企画展・テーマ展等	4	0	0	
	(3) 普及教育活動	6	0	0	
4 施設の計画的な整備・維持管理		6	1	1	
5 情報の発信と公開		6	1	0	
6 県民参加		5	0	0	
7 効果的・効率的な管理運営		4	0	0	
8 中核的博物館としての機能充実		8	0	0	
計		55	5	3	

3. 年度内に取り組んだ重点事業・新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・とちぎ版文化プログラムリーディングプロジェクト事業、企画展「昭和ノスタルジーなつかしい栃木の情景」の開催 東京オリンピック・パラリンピックに向けて本県の魅力ある文化の発信、地域活性化に繋げる事業として、統一テーマ「情景」に基づき、昭和30年代から50年代の栃木の情景を「まつり」「くらし」「生業」「娯楽」の4つのテーマに分け、資料や写真、映像、実演や体験等の企画展を開催した。 ・企画展、テーマ展の開催 企画展「下野の鎌倉街道一帯を歩き交う人と物」や企画展「キノコと地衣類―菌類って不思議！」をはじめ、学芸員の調査研究に基づく企画展やテーマ展を開催し、本県の自然・歴史・文化の魅力や特色を広く県民等に情報発信を行った。 ・普及教育事業の推進 市町や学校等と連携しながら、地域における移動博物館や出前授業・観察会の実施など、普及教育事業を積極的に推進したほか、県有バスを利用した小規模小学校の来館促進事業を実施した。 ・各種メディアを活用した情報発信 ホームページやフェイスブック等を活用し、行事イベントやボランティア活動に加え、「顔の見える博物館」として学芸員の職員紹介等の情報発信を行ったほか、取材や新聞コラム欄への定期的な執筆活動等を通して、調査研究に係る情報発信を積極的に行った。 ・県立博物館の日イベントの実施 県民に親しまれ、開かれた博物館を目指して、毎月第3日曜日を「県立博物館の日」とし、学校や関係団体等の協力を得ながら各種イベントを実施した。 ・新収蔵庫棟の整備 昨年度に引き続き、工事の施工管理を適切に行い、令和2(2020)年3月竣工した。今後は、令和3(2021)年4月の供用開始に向け、資料の保存に適した庫内環境を整備し、収蔵棚の購入と資料の移転業務を実施する。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「昭和ノスタルジーなつかしい栃木の情景」をはじめ、特色ある企画展・テーマ展等の開催により、県民をはじめ広く、本県の歴史・文化や自然の魅力・特色についての紹介・普及に努め、各種メディアを活用した情報発信を積極的に行った。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、3月には臨時休館となったが、年間を通して、昨年度に引き続き、22万人を超える多くの方に入館していただいた。(H30:229,715人、R元: 220,667人) ・地域移動博物館や出前授業等の実施により、市町や学校との連携強化に努めた結果、前年同様、移動博物館等で多数の入館者があった。(H30: 145,240人→R元: 141,027人) ・「県立博物館の日」は実施開始から6年、「県博デー」として定着し、協力団体の関係者等をはじめ、多くの入館者(平均895人)を確保するなど、「県民にとって開かれた親しみやすい博物館」として一定の効果を上げている。 ・新収蔵庫棟整備については、関係課、設計・施工業者等と連携・調整し、適切な施工管理に努め、令和2(2020)年3月に竣工した。また、駐車場の収容台数の改善を図った。

定性的評価項目チェックリスト(R元)

a: おおむねできている b: ある程度できている c: 不十分

大項目	中項目	チェック内容	評価
1 資料の収集・保管	(1) 資料の収集	① 必要な資料収集が行われているか	b
		② 館が定めた中・長期的な収集方針に基づき資料収集が行われているか	a
		③ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	a
		④ 収集資料の燻蒸・クリーニングが適切に行われているか	a
		⑤ 標本作成途中の資料の管理が適正に行われているのか	a
	(2) 資料の保存管理	① 資料の収蔵スペースは確保されているか	c
		② 資料の収蔵環境は適正に管理されているか	b
		③ 有害生物のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	a
		④ 資料の修復や保存処理等の措置を必要に応じて行っているか	c
		⑤ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	a
		⑥ 資料台帳・データベースが整備・更新されているか	b
		⑦ 収蔵庫の入退室管理簿が整備されるとともに、適正に管理されているか	a
		⑧ 収蔵庫の鍵が適正に管理されているか	a
2 調査研究	① 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	a	
	② 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加しているか	a	
	③ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	a	
	④ 調査研究の成果を、国、県、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	a	
3 展示・普及教育活動	(1) 常設展示	① 展示資料等が適宜点検されているか	a
		② 展示情報が適宜修正・更新されているか	a
		③ 展示設備等が適宜点検・整備されているか	a
		④ 展示解説等が適宜実施されているか	a

3 展示・普及教育活動	(2) 企画展・テーマ展等	① 県民ニーズや時代の要請を踏まえて、企画展・テーマ展等を開催しているか	a
		② 調査研究成果の蓄積や、最新の学術情報を反映した企画展・テーマ展等を開催しているか	a
		③ 模範的、先進的な展示手法を用いた企画展・テーマ展等を開催しているか	a
		④ 中・長期的な企画展の開催計画を策定しているか	a
	(3) 普及教育活動	① 多様な参加者を想定したプログラムが用意されているか	a
		② 学校教育活動との連携を図っているか	a
		③ 教員指導者向けの支援・育成プログラムを実施しているか	a
		④ 事業実施にあたり参加者の安全が配慮されているか	a
		⑤ 来館者用の図書・情報コーナーを整備しているか	a
		⑥ 学芸員実習や職場体験の学生・生徒を受け入れ、適切に指導しているか	a
4 施設の計画的な整備・維持管理	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	b	
	② 危機管理マニュアルを整備し職員に周知しているか	a	
	③ 緊急事態に対応できるよう、消防・避難等の訓練を定期的実施しているか	a	
	④ 休憩コーナー、授乳コーナーの設置や車椅子の貸し出し等、来館者が快適に観覧できる環境が整っているか	a	
	⑤ 手すり、点字ブロックなど、バリアフリー化への取り組みがなされているか	a	
	⑥ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	a	
	⑦ 館内サインの英文表記など国際化への対応はとられているか	a	
	⑧ 利用者数に見合った駐車場が確保されているか	c	
5 情報の発信と公開	① 館の使命をわかりやすい言葉で明文化し、ホームページなどで公開しているか	a	
	② 年報、要覧などを通して、事業実績や(目標の達成状況、)財務など、館の運営状況を公開しているか	a	
	③ 展示・普及教育事業情報が利用者に広く発信されているか	a	
	④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	a	

		⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等)に適切に対応しているか	a
		⑥ 二次資料(写真等)の特別利用(原板使用等)に適切に対応しているか	a
		⑦ 資料のデータベースを公開・更新しているか	b
6 県民参加		① ボランティア活動が活発に行われているか	a
		② ボランティア研修が適切に実施されているか	a
		③ 友の会、研究団体、文化団体等が館事業に参加する機会を設けているか	a
		④ 施設利用のための情報が公開されているか	a
		⑤ オープンスペースを有効に活用しているか	a
7 効果的、効率的な管理運営		① 館として中長期的な経営目標を定め、職員に周知しているか	a
		② 館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に行っているか	a
		③ 事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価を実施しているか	a
		④ 事業面、管理運営面など全般にわたる外部評価を実施しているか	a
8 中核的博物館としての機能充実		① 公開承認施設として資料を公開しているか	a
		② 県内の博物館職員を対象とした研修会・見学会等を実施しているか	a
		③ 県内の博物館施設を対象とした協力・支援・連携事業を実施しているか	a
		④ 県外博物館施設との相互協力事業を実施しているか	a
		⑤ 地方自治体や各種組織に専門的な立場で助言・情報提供を行っているか	a
		⑥ 大学、高校等の教育機関への寄与・貢献を行っているか	a
		⑦ 県内外の学会、研究会等の運営に寄与・貢献しているか	a
		⑧ 栃木県博物館協会の中心館として機能しているか	a

4. 総合評価

目標値：評価項目の数×3
 達成値：評価aの数×3+bの数×2+cの数

評価の種類(項目数)	A評価	B評価	C評価
定量的評価(14項目)	13	1	0
定性的評価(11項目)	9	1	1
総合評価	94.6% [達成値/目標値: $((13+9) \times 3 + (1+1) \times 2) + 1 \times 1 \div ((14+11) \times 3) = 71 \div 75 = 0.946$]		

5. 自己評価総括

評価	<p>「定量的評価」については、「学校来館数」が学校行事等の関係で目標値を若干下回ったが、館内体験学習や出前授業等講座数が大幅に増となっている。「定性的評価」については、「資料の収集・保管」「施設の計画的な整備・維持管理」の2項目で目標値を下回ったものの、新収蔵庫棟の整備を確実に進め、併せて北駐車場の駐車スペースの確保が見込めることから、概ね 適正な運営であったと認められる。今後も引き続き、運営予算の確保に努め、必要な資料の収集、老朽化した施設の計画的な修繕、データベースの整備・更新などの課題について、関係部局と協議・連携の上、具体的な対応を進めていく必要がある。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集・保管に係る収蔵スペースの確保及び収蔵環境の改善 ・来館者用駐車場の確保 ・老朽化した施設の計画的な更新 ・ボランティア活動の活性化 ・博学連携の推進 ・新しい生活様式を踏まえた安全安心な施設運営
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵スペースの確保及び環境の改善については、新収蔵庫整備工事を計画どおりに竣工させ、令和3(2021)年度の供用開始に向け、関係機関と調整を図りながら、資料搬入や空気環境調整等の作業を着実に進めていく。 ・来館者用駐車場の確保については、博物館北駐車場の再開に当たり、収容台数増を図るとともに、本館西側スペースを有効に活用し、イベント等の混雑時には、来館者用駐車スペースを確保する等、柔軟に対応する。 ・施設の計画的な更新については、現況や優先度を踏まえ、関係部局と協議・連携しながら予算の確保に努めていく。 ・ボランティア活動の活性化については、ボランティアの意向も踏まえながら、主体的な活動ができるよう環境の改善を図り、研修の充実、ICTを活用した情報発信等を積極的に行っていく。 ・博学連携については、さらなる各事業の内容の拡充や広報に努め、コロナ感染防止策をとった上で、出前授業や博物館体験プログラム等学校との連携を図っていく。 ・国や県の指針及び日本博物館協会の感染拡大防止ガイドライン等に則り、職員の健康確認はもとより、入館者に対する検温の実施等、必要な対策を講じる。また、先進技術を活用し、自宅にいながら博物館を体験できる企画等、工夫を凝らし、博物館の情報発信に努める。

6. 博物館協議会総括

協議会の意見	<p>令和元年度の博物館の運営の状況については、概ね適正に運営されたと判断される。 しかしながら、次の事項については、博物館本来の使命や県民サービス、県民との協働等、博物館運営に関わる大きな課題であることから、対応策を検討すること。</p> <ol style="list-style-type: none">1 調査研究は、博物館の根幹をなすものであるため、今後も調査研究活動について期待する。 さらに、日光地域の学術調査の成果を、県立博物館の目玉であるスロープ展示等にも活用すること。2 関係部局と協議・調整の上、積極的な予算の確保に努め、老朽化した施設の改修・修繕を計画的に進めること。3 県立博物館独自の企画であり、博学連携のモデルともなる「県博デー」のPRや、中央公園内での博物館の催し物の周知方法等について工夫すること。4 入館者増を図るため、時代のニーズに応じたバーチャル技術等を活用した展示と共に、実物の魅力を体感でき、実体験を促すような魅力ある展示の企画・導入について、積極的に推進すること。
--------	--